安全作業手順書【集水ます清掃】

作成日・改正日	2025/4/1 （前回改正：2024/4/1）	現場名	東名高速道路（豊田IC～春日井IC） 名古屋第二環状自動車道 （名古屋IC～飛島北IC,有松IC～上社JCT）
機器工具・車両	スコップ、ホウキ、塵取り、てみ、バキューム車、小型移動式クレーン、高圧洗浄車、散水車	保護具	ゴム手袋、軍手、保護マスク、安全ぐつ・長ぐつ、ヘルメット、安全チョッキ

見積もり基準をした危険性の評価

重大性(B) / 可能性(A)	○ 軽微（不休と休業３日以内）	△ 重大（休業４日以上）	× 極めて重大（死亡・障害が残る）
○ ほとんど起こらない（５年に１回程度）	○○（極めて小さい）	○△（かなり小さい）	○×（中程度）
△ たまに起こる（１年に１回程度）	△○（かなり小さい）	△△（中程度）	△×（かなり大きい）
× かなり起こる（６ヶ月に１回程度）	×○（中程度）	×△（かなり大きい）	××（極めて重大）

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例

危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし（様子を見る）
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作業区分		作業手順・作業内容	急所	危険ポイント（～なので～になる）	リスクの見積り (A)	(B)	リスク	安全対策（危険度２以下へ）（私達はどうする）	リスクの再見積り (A)	(B)	リスク
準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう	作業員全員で	手順を間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1
		作業員の役割（運転手、助手）を決める	免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って	免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両ｽﾃｯｶｰを確認する	○	△	2
		作業場所及び車線を確認する	上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように	/	/	/	/	/	/	/	/
		使用機械、工具等の点検を行う	作業前に	作業中に機械が故障し、思わぬケガをする	△	×	4	作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う	○	○	1
		交通規制状況を確認する	必ず当日の規制簿を使用して	/	/	/	/	/	/	/	/
		しらすんだーの動作確認を行う	朝礼時に毎日作業員全員で動作確認をする	電池切れで音が鳴らずに後続車に追突される	△	×	4	毎日動作確認をし、電池が減ったら交換する	○	○	1
		作業域後方に緩衝材つき防護車両を配置する	安全対策のため	作業中、後方及び横側から走行車両に追突される	○	×	3	移動規制を伴う場合は、必ず防護車両を配置する	○	△	2
	車両確認	セーフティーバイブル	25.車両回送手順書に則る								
	作業車両準備										
	作業車両点検										
	出発準備										
本作業	出発										
	規制内進入										
	車両移動停止										
	逸走防止										
	使用機器等準備	現場に到着	作業車または作業員の身を物理的に守るために緩衝材付き防護車両を後方に配置して	作業車または作業員と防護車両の離隔が離れすぎてしまい、一般車が作業車、作業員に突っ込み事故となる	△	×	4	防護車両を作業車の後方に離隔50m程度の間隔で配置する。移動作業の場合は間隔の維持に留意し十分注意して走行する。	○	○	1
		車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指挟まれに気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2
	清掃準備	移動式ｸﾚｰﾝにてふたを開ける	操縦者、合図者を確認して	無資格者による操縦により災害が発生する	△	△	3	現場責任者は必ず操作しようとする者の資格の有無を確認し、資格所持者は必ず現場に資格証を持参する	○	○	1
				フタが固着してワイヤーが切れる	○	×	3	ワイヤーの点検及びゆっくりと引き上げる	○	○	1
				複数名で合図してしまい事故になる	△	△	3	操縦合図者は作業前に選任する	○	○	1
	吸引作業	バキューム車にてますから土砂を吸引する	①操縦者、合図者を確認して	不慣れな者が操縦し、災害が発生する	△	△	3	現場責任者に任命されたもの以外操作しない	○	△	2
			②警笛を用いて合図を行い	任命された操縦者以外の者が操縦盤に触れ、合図者やホース持ち担当の者が被災する	△	△	3	選任された操縦者以外は操縦しない。無闇に操作盤に近づかないように打合せを行う。	○	○	1
			③バキューム車のキャチャーに飛散防止対策がされているかチェックして	飛散防止対策がされていないキャッチャーから水糸気等が噴射され、通行する一般車等に降りかかる第三者被害となる	△	△	3	使用前点検を実施し、飛散防止対策がされていることを確実にチェックする。対策がされていない車両は使用しない。	○	○	1
		ふたを閉める	締付け工具でボルトを締付け、マーキングを行い	/	△	△	3	/	/	/	/
	仕上げ	ホウキ等で清掃する	排水溝の周りも同様に	清掃時にゴミが飛散し本線側の走行車両に接触する	△	△	3	必ず周囲を確認し、現場保安員及び現場責任者は適時指導しながら清掃を行う	○	△	2
	掃除	場内の確認をする	排水溝の周りも同様に	/	/	/	/	/	/	/	/
	点検	ふたの据付、ボルトマーキング、路面状況を確認する	現場責任者が	/	/	/	/	/	/	/	/
	片付け	車両に使用機器・道具等を積込む	運転者は飛散防止シートをかけて	シートを荷台にかけず、回送中に荷台の荷物が飛散・落下してしまう	△	△	3	シート及びﾈｯﾄを必ず使用して飛散防止の養生を行う	○	△	2
	（離脱準備）	路面等場内の確認をする	忘れ物、清掃漏れが無いか再度	出発前に確認を怠り、忘れ物等に気づかず離脱し走行車両に接触する	△	△	3	現場監督者を含め二人以上で必ず場内の確認をしてから離脱する	○	△	2
	現場離脱及び	25.車両回送手順書に則る									
	帰着	25.車両回送手順書に則る									
	駐車										
	後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/
特記事項	1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。									
	台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逸走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に仮置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1